

新横浜・大豆戸・菊名・大倉山・新羽など港北区南部の「地域インターネット新聞」ダイジェスト版です

shin-yoko.net

ネットで注目の話題

相鉄・東急「新横浜線」、3つのトンネルが都心方面へつながる



難工事だった「新横浜トンネル」も昨年11月に貫通した(4月撮影)

2022年度下期(同年10月～2023年3月)の開業に向けて工事が進む「相鉄・東急新横浜線(相鉄・東急直通線)」で、3つあるトンネル掘削が4月下旬までに終わり、羽沢横浜国大駅から新横浜駅、新綱島駅を経て日吉駅までの約10キ

ロが地下でつながりました。

住宅が密集し、地盤の柔らかい場所が点在する港北区内の掘削は苦勞が多く、「新横浜トンネル」を掘っていた昨年6月には大豆戸町の環状2号線で陥没が連続し、翌7月には「綱島トンネル」でも上部の道路が盛り上がる現象が発生しました。

そうしたなかで地中でのトンネル掘削工事を完了。新横浜駅や新綱島駅の土木工事もほぼ終え、各設備やレール敷設などの工事に移っている段階です。

開業後は1時間あたり4～6本、朝ラッシュ時は10本～14本の列車を設定、東急東横線や目黒線方面へ直通運転する計画。現時点で都営三田線が相互乗り入れの検討を表明します。羽沢横浜国大駅方面からの列車に加え、新横浜駅からの始発便も一部設定される可能性があります。

新横浜から港北区内の綱島・日吉が鉄道でつながることに加え、渋谷や目黒など東京都心方面への利便性が格段に高まります。

地域のニュース

●「篠原郵便局」が新横浜駅近くに拡張移転

篠原町にあった「横浜篠原郵便局」は、7月19日から新横浜駅の篠原口側に建てられた3階建ての新築建物「ルヴァンヴェール新横浜」(大豆戸町)の1階へ拡張移転し、営業を始めています。

●大倉山の秋本さん、新羽の尾出さんが新会長



左・秋本さん、右・尾出さん

港北区内13エリアごとに組織されている「地区連合町内会」で、新年度から大倉山の秋本健一会長(太尾宮前町会)、新羽の尾出(おいで)清和会長(新羽町中央町内会)が新たに就任。港北区連合町内会のメンバーとして活動を始めています。

●秋の「港北区民まつり」、横浜アリーナ初開催

例年秋に開催されている「ふるさと港北ふれあいまつり」は、今年は11月13日(土)に横浜アリーナで初開催することが決定。同アリーナの恒例イベント「秋のヨコアrikunまつり」と同日に行われます。広いスペースを持つ同アリーナを会場とすることで、ソーシャルディスタンスが確保しやすく、天候に左右されることなく実施できる点もメリットとなりそうです。

書籍『わがまち港北』完結



2009(平成21)年、港北区制70周年を機に刊行が始まった港北区の歴史エッセー書『わがまち港北』(同出版グループ刊)が昨年11月の第3巻刊行で完結しました。

大倉精神文化研究所の理事長・平井誠二さんが1999(平成11)年1月から区民向けの情報紙『楽・遊・学(らくゆうがく)』で始めた連載を書籍としてまとめたもので、区の各地域に眠る歴史を掘り起こし、同研究所の研究員・林宏美さんも加わり、わかりやすく1話ごとに読み切りで執筆しています。

第3巻の刊行を機に、入手が困難になっていた第1巻と2巻を再発売。区内の主要書店とインターネット書店で販売し、価格は1・2巻が1320円、3巻は同1650円(税込)。電子版も刊行。

【発行者より】「新横浜新聞～しんよこ新聞」は、2016年7月の創刊から5周年。インターネット上で日々情報を発信中です。港北区北部エリアの「横浜日吉新聞」とともに、新型コロナ禍においても「地域をつなぐ」役割を強化してまいります。

【発行元】一般社団法人 地域インターネット新聞社
横浜市港北区箕輪町2丁目7-60-2C

【裏面もご覧ください】

横浜出身の佐伯さんが「相続・終活」を支援、2つの「遺言」新プラン

横浜生まれ・育ちの司法書士が、新横浜を拠点に「法律の専門家」としての活動の場を広げています。新横浜2丁目の新横浜駅前公園に近いF・マリノス通り沿い・シルバービル内にある「司法書士 佐伯啓輔事務所」では、不動産登記や相続、成年後見や民事信託といった手続きや、その代理人としての役割を担う業務を行い、特に、「相続」や「遺言」、「終活」の分野での相談者の支援に力を入れているといいます。

● 司法書士・佐伯さんは横浜生まれ・育ち

横浜市港南区生まれ・育ち、神奈川県立柏陽高校(栄区柏陽)から上智大学法学部(東京都千代田区)に進学した佐伯啓輔さんは、2006(平成18)年9月に司法書士登録。2012(平成24)年に「司法書士 佐伯啓輔事務所」を開設し、2013(平成25)年から神奈川県司法書士会(中区山下町)の理事・事務局次長、2015(平成27)年からは同会の常任理事・事務局長を務めるなど、「司法書士」としてのキャリアを積んできたことで知られています。



「司法書士としての業務の幅広さを知ってもらいたい」と語る佐伯啓輔さん(写真:同事務所提供)

司法書士の仕事について、「世の中にある“手続き”を行うことが主な仕事です。不動産の登記や会社の登記、企業法務、企業が円滑に資金調達を行うための動産譲渡登記・債権譲渡登記や、今注目されている相続や民事信託・家族信託、認知症などで判断能力や意思能力が不十分な方を保護・支援するための制度として知られる成年後見・任意後見といった業務を取り扱っています」と、「司法書士法」に定められた法務局への登記や、民事訴訟の裁判の手続きも行えるという業務の幅広さを知ってもらえたらとのこと。

● 不動産購入時には早めの遺言書作成を

佐伯さんは、「新たに家やマンションを購入した方や、子どもがいない方には、早めの遺言書の作成をおすすめしています」とアドバイス。相続の悩みを解消するためのサポートを日々行っています。



新横浜や出張での無料相談会も



新横浜駅徒歩約5分、F・マリノス通りにある司法書士 佐伯啓輔事務所
(公式ホームページ: <https://saekioffice.jimdofree.com/>)

● 遺言書の新プラン「おてがる」「きちっと」

「佐伯啓輔事務所」では、今年(2021年)3月から、新たに「司法書士による遺言書作成サポートサービス」プランの提供をスタート。

「おてがる」、そして「きちっと」と名付けた2つのプランでは、初めて遺言書を作成する人にもよりわかりやすい料金体系を設定したといい、すでに大きな反響を呼んでいるといいます。



「遺言書をより身近に」と、新しいパンフレットも制作し配布している(写真:同事務所提供)

「自筆証書遺言」として自分で手書きをし、署名と捺印をして作る「おてがる」(3万8500円・税込)は、コストが低く抑えられることが特色。

証人2人のもと、公証役場で作成するため、証明力が高い「公正証書遺言」の作成は、「きちっと」(10万7800円・税込)でサポートしています。

「遺言書を作成しておくことで、スムーズに財産を引き継ぐことができます。残されたご家族のトラブルを回避するためにも、ご自身の置かれたご状況をまずはお聞かせください」と、同事務所への問い合わせ・アクセスを呼び掛けている。

● 司法書士 佐伯啓輔事務所(新横浜)

新横浜2丁目14-4 シルバービル(新横浜駅より徒歩約5~6分)
TEL: 045-475-1279 FAX: 045-470-5147
公式ホームページ: <https://saekioffice.jimdofree.com/>



しんよこ新聞では「ツイッター」(@shinyoko_net)や「フェイスブック」(@shinyokonews)でも日々情報を発信中です

